

南宗ブロックにおける グループ研究体制の推移

猿払村立鬼志別小学校
関 ゆきの

1. はじめに

宗谷管内公立小中学校事務職員協議会（以下、宗事協）では、「主体的な学校事務の創造を求めて」をテーマに、研究・研修を進めています。また、10市町村を3ブロック（稚内、利礼、南宗）に分け、ブロックを単位とした研究・研修活動も積極的に進めています。

南宗ブロックは枝幸町・猿払村・中頓別町・浜頓別町の3町1村で構成され、2017年度現在13名で活動しています。20代・30代という若い年齢層が約8割を占めています。年2回（7月、12月）開催しているブロック研修会では「学校事務職員としての力量の向上を目指して」をテーマに、グループ研究および個人研究活動を推進し、組織的な研究を行っています。

本レポートでは、過去の資料と会員からのアンケートをもとに、南宗ブロックでのグループ研究の取り組みについて、浮かび上がってきた課題とその解決に向けた取り組みを中心に変遷をまとめました。

2. 宗事協でのグループ研究について

宗事協では、「子どものため」「専門的力量的向上」「学校間連携」の3本柱で「学校にいてこそ」という立場を生かした学校事務実践を進めています。

2010年度の宗事協研究部活動方針案では、「一人で出来ることには限界があるのではないか」「もっと（課題解決のために）出来ることはないのか」「助け合うという集団化を考えるのは、事務の強化に繋がるのではないか」などの仮説から「事務の繋がりを強くし、より事務の可能性を広げよう」という方針のもと、積極的なグループ研究が提起されました。

提起では、研究成果を学校に還元することを目的に、グループの構成や研究内容は各ブロックで決定するようになっていました。

3. 町村別でのグループ研究

(1) 南宗ブロックのグループ研究の始まり
宗事協研究部の提起を受け、南宗ブロックは町村単位でグループを構成し、町村の抱える課題を共有し、課題解決に努める（以下、町村別グループ研究）こととしました。

(2) 町村の状況と取り組み内容

・枝幸町	南北に約45kmと広域に学校が点在しています。学校数もブロック内で最も多く、小学校が9校、中学校が3校あります。事務職員未配置校もありますが、会員が多くいます。学校安全や公費の効果的な執行についての研究をしてきました。
・猿払村	現在小学校が4校、中学校が1校の村で、年度の状況にもよりますが、大半の事務職員が会員です。過去の全道研で報告したとおり、学校図書に関わる研究をしてきました。
・中頓別町	枝幸町とは対照的に町村内に小学校、中学校ともに1校ずつしかありません。公費や私費などの財政について、公費に関わっては特に教育委員会との関わりを大事にしながらか研究をしてきました。
・浜頓別町	2010年度は小学校が2校、中学校が1校の会員状況でしたが、小学校1校が事務職員未配置校となり、近年は中頓別町と同じ状況にあります。管内他校の視察を行いながら、私費会計改善などについて研究をしてきました。

なお、中頓別町と浜頓別町では一時期合同で、図書環境整備についてのグループ研究や実務研修をしていたことがありました。

(3) 町村別グループ研究の成果と課題

グループ研究を町村単位で構成したことで、中学校区での小中連携や町村教育研究会のサークル活動を下地に、大きな混乱もなく始めることができました。

町村別グループ研究では同じ自治体のため、

「教育課題を共有でき、研究課題の設定がしやすい」、「教育委員会に対し予算要望につなげることができた」という成果がありました。

しかしその一方で、徐々に課題も浮き彫りとなりました。課題は大きく分けて3つありました。

①グループ研究への意欲

「研究課題の設定がしやすい」という成果がある一方で、「同じ町村であっても学校規模の違いにより、子どもや学校の共通課題を見つけることが難しい」と感じる会員もいました。

また、課題の共有はできたが、「学校体制や事情によりグループ内で同内容を一斉に進めることが難しい」という意見や、「グループ研究での課題と学校で優先したい課題や個人で追求したい課題が合わないことが多い」「グループ研究が本当にやりたいことだったか疑問に残る」といった共通課題と自校で取り組みたい課題、自分自身が研究したいこととの違いに苦しむ意見も出されていました。

他には「長年継続して取り組んでいる活動への参加が難しい」という意見や、中学校が複数ある町村が枝幸町しかないため、「中学校ならではの課題解決のための意見交流や研究をグループで行う機会に恵まれない」という意見もありました。

こうした意見が2012年度から活動反省にも挙げられており、一定の成果を感じつつも、意欲的にグループ研究を行えない状況が生まれていました。

②町村ごとの人数

枝幸町や猿払村のように多人数グループもあれば、中頓別町や浜頓別町のように2名しかいないグループもあり、人数編成が二極化していました。

枝幸グループでは、全員で集まることが困難を極めていました。町教育研究会のサークル活動後を利用するなどし、集まり方を工夫していましたが、なかなか集まることができず、研究活動が進まないこともありました。また、グループ内での認識の共通化ができず、最終的にはグループリーダーに任せきりにな

るような事態も起こりました。

人数が少ないグループでは、メンバーが変わらず新たな課題設定が難しかったり、研究が発展していない状況がありました。反対に同時に異動もあるため、活動が引き継がれにくい状況にもありました。

③経験年数の違い

南宗ブロックでは初任者や経験年数が少ない事務職員が多くいます。

人数の多いグループでは、初任者層は「何もわからないし意見が出しづらいため、町村に長く在籍している職員やベテラン勢の意見が主に反映されてしまう」との意見がありました。

人数の少ないグループでは、初任者が赴任すると、「実務に関わる研修が優先されて、グループとして研究活動を行うことが困難」となったり、いざ研究活動を始めても、「研究したい内容や研究に対して求めている水準が異なる」といった状況もありました。

4. テーマ別グループ研究へ

上記の課題を受け、ブロック研修会では、グループ研究の他に個人レポートの交流の時間を設け、各町村の実態交流や自校の課題への取り組み交流を行ったり、ブロックの研究部が主となり実務研修を行ってきました。

しかし、グループ研究活動に大きな変化は見られず、ブロック総会でもグループ研究の体制変更について話が挙がりました。

これらの流れを受け、2015年度にブロック役員を中心に、本格的にグループ研究の体制の見直しを行うことにしました。

ブロック役員はこれらの課題を踏まえ、研究に主体的に取り組んでもらえるよう「個々が感じる課題を研究する」(以下、テーマ別グループ研究)ことで、グループ研究活動と個人の意欲の活性化を図ることにしました。

まずは、テーマの決定にあたり、会員より研究したい課題を集約することにしました。特段の制約なしに会員から研究したい課題とその理由を集約したことで、十人十色の意見が寄せられました。役員会で集約したテーマをカテゴリー別に、学校環境整備・実務研究・

職務についてなどの理論研究・公費の執行等を追求する財政財務活動・私費の執行等を追求する学校徴収金・教材整備関係の6つに分けました。

次に、グループの構成人数は、町村別グループ研究での課題から3名以上で成立としました。役員会で分けた6つのテーマを会員に示し、所属希望を募り、集約・調整を行った結果、以下の4つのグループが成立しました。

- I、学校環境整備グループ
- II、実務研究グループ
- III、理論研究グループ
- IV、財政財務&学校徴収金グループ

研究活動期間の設定は、1年では具体的な計画・実践・検証を行うには短く、逆に長めに設定しても間延びしてしまうため、2016年度から2年間とし、2015年度は移行期間としました。

進め方や方法については、各グループに一任としましたが、始めに2年次までの目標を定めることとし、1年次終了後、総括を行い、2年次の方針に生かすことにしました。

他にも、新しい研究を始めるにあたり、役員会では次のような体制づくりを行いました。

(i) 統一フォームの作成

これまでもグループごとに、研修会の場合を設定していましたが、校長への研修会案内等は統一したものがありませんでした。若い会員も多くいるため、「日程調整」・「開催案内」・「講師依頼」のフォームを統一しました。

(ii) 旅費の保証

さらに、テーマ別グループ研究では、町村をまたいでの研修会となるため、役員会でブロック活動費の執行を見直し、旅費を計上することで、研修会の機会を保障しました。

2015年12月のブロック研修会の中でグループごとの話し合いの時間を設け、2016年度から本格的にテーマ別グループ研究活動を開始しました。なお、人事異動で他ブロックから転入してきた会員や新会員にも4つのテーマから選び、参加してもらうことにしました。

5. テーマ別グループ研究進捗状況

・学校環境整備グループ
「安全安心の学校環境整備」に向けて、各校の課題に対する取り組みを共通書式で記録化し、研修会ごとに課題や取り組みを持ち寄り交流しています。
・実務研究グループ
ブロック内でも特に年齢層の若い会員が集まり、自らが困った経験を生かし、『誰もがわかる・できる「実務」を目指して』、学校事務の入門編を作成しています。
・理論研究グループ
これまでの学校事務研究の歩みを調べるとともに、宗谷の事務職員像を諸先輩方から聞き、これからの宗谷の学校事務を模索しています。
・財政財務&学校徴収金グループ
単なる私費負担の公費化ではなく、学校の教育活動に対してより合理的な公費・私費の執行方法がないかを他校への波及の可能性を模索しながら追求しています。

6. テーマ別グループ研究での成果と課題

これまでの町村別グループ研究とテーマ別グループ研究の1年次の振り返りとして、南宗ブロックの会員と以前、南宗ブロックに所属していた会員にアンケートを実施しました。町村別グループ研究での課題について、以下の改善が見られました。

【グループ研究への意欲】では「自分の興味ある研究ができる」「自校の抱える課題について研究できている」と意欲的にグループ研究活動に参加できていることが分かりました。さらには、「他の町村の人とも関わりを持てる」「視野が広がる」という意見もあり、町村に限らないつながりを持つことができ、有意義な機会になったことをうかがい知ることができます。

【町村ごとの人数】ではグループあたりの人数を決めたことで、町村別グループ研究で多人数グループだった会員からは「グループの人数が少なくなったため意識の共通化が図りやすい」「人数の差が生まれなため、各グループで差がなく活発な意見交流ができる」

という意見も挙げられました。

【経験年数の違い】ではテーマ別にしたことで、経験年数が少ない会員が多く所属しているグループでは「自由な発想で議論できる」という意見や別のグループからも「若い会員が積極的に参画できているように感じる」という意見も挙げられました。

このようにグループ研究活動に対する満足感が一人ひとりに生まれており、町村別グループで抱えていた課題が解消されつつあります。しかし、テーマ別グループ研究を進めるうちに、以下の課題が見えてきました。

①集まりにくさ

今回、統一フォームの作成と旅費の保証により、研修会が設定しやすく、参加しやすいものとなるような体制づくりを行いました。

しかし、町村別グループ研究の時と比べると移動距離が増えた会員が大半で、「日程調整に時間がかかる」「出張回数が多い」「ブロック全域からの集合なので日時の設定が難しく、研修会の回数を多く持ちづらい」と実際には集まりにくさを感じる結果を招きました。

②町村の違い

町村別グループ研究では、地域の課題解決に向けて取り組みを進めてきました。テーマ別グループ研究となったことで、「町村別の課題に向き合う時間が減った」「町村内の動きと合わせることが難しい」「町村をまたぐので規則等が違いやりにくい」という意見が挙げられていました。また、「学校での取り組みで止まってしまう」という意見もありました。近隣の学校や教育委員会等の教育関係機関との連携を通して、課題を共有し、解決への道筋を探ることにグループ研究の意味があります。しかし、町村の教育委員会に対して共通した要望を出すことが難しくなるなど、これまで取り組んでいたことができなくなったことに戸惑いを感じる会員もいます。

③「子どものための学校事務」の視点

新しくテーマ別グループ研究を始めるにあたり、宗事協が大切にしている「子どものための学校事務」の視点を会員全員で共通にで

きていませんでした。そのため、「子どものためのグループ研究と実感できなかった」「事務職員のための取組になっているのではないかと感じる会員もいました。

7. 今後に向けて

アンケートの中で、町村別グループ研究とテーマ別グループ研究のどちらが良い研究となっているかを質問しました。回答者14名中10名は「テーマ別のほうが良い」との回答でした。

町村別グループでの研究にあたっては、これまで述べたような課題が絡み合い、継続した研究が十分機能していない状況にありました。これらの状況から結果的に研究意欲の低下につながったと推測することができました。

そのような背景を踏まえると、今回、テーマ別グループ研究に移行したため、「テーマ別のほうが良い」と感じたのではないのでしょうか。

アンケートには、今後の研究についても意見が書かれています。

例えば、研究体制で言えば、「それぞれのグループ研究体制の成果と課題を精査した上での折衷案」「中学校グループと小学校グループでの交流」や、テーマ設定においては「どういう目的でグループ研究を取り組むかを共通化させたい」という意見も書かれています。集まりにくさの課題については「手段の一つとしてスカイプの活用」も挙げられています。また、「取り組み方に問題がある」と厳しい意見も寄せられています。

過去の資料からこれまでの宗事協や南宗ブロックの研究の経過や当時の思いを振り返り、課題を見返すことができました。また、グループ研究に対する会員一人ひとりの思いを知ることができました。若い世代にとって研究は意欲の有無ではなく、どのように関わった方がいいのか分からないという不安が大きかったと思います。広域な土地柄もあり、集まることに難しさはありますが、自分たちが抱える課題に向き合い、主体的にかかわった経験は今後のためになるのではないのでしょうか。

今後も会員が研究に対する意欲を持ち続けられるよう会員の声を十分に聞きながら、「子どものための学校事務」という視点を忘れず

に、2カ年計画終了後も会員の状況に沿った研究体制を模索したいと考えています。

南宗ブロックにおけるグループ研究体制の推移

宗谷管内公立小中学校事務職員協議会（以下、宗事協）の研究について

テーマ「主体的な学校事務の創造を求めて」

宗事協のグループ研究について

研究の柱 ①子どもに視点をあてた主体的な学校事務を追求しよう
②専門的力量的向上を目指そう
③近隣校や市町村ごとに連携を深めよう

南宗ブロックのグループ研究について

町村別グループ研究の開始

枝幸町…学校安全や公費の効果的な執行について
猿払村…学校図書に関わる研究
中頓別町・浜頓別町合同 → 中頓別町…公費について
→ 浜頓別町…私費会計改善

成果 ①集まりやすい ②課題設定のしやすさ ③予算要望活動
課題 ①グループ研究への意欲 ②町村ごとの人数 ③経験年数の違い

町村別からテーマ別グループ研究へ

テーマ設定…会員より集約
構成人数…3名以上で成立
期間…2016年度～2年間
その他…研修会開催案内等のフォーム作成・旅費の保証

テーマ別グループ研究の開始

学校環境整備グループ…安全安心の学校環境整備
実務研究グループ…誰もがわかる・できる！実務をめざして
理論研究グループ…学校事務職員とは？～具体的な仕事から理論へ～
財政財務&学校徴収金グループ…学校の教育活動に対する合理的な執行方法とは

成果 ①意欲的な取組 ②意識の共通化のしやすさ ③自主的な研修会への参加
課題 ①集まりにくさ ②町村の違い ③「子どものための学校事務」の視点

今後に向けて